

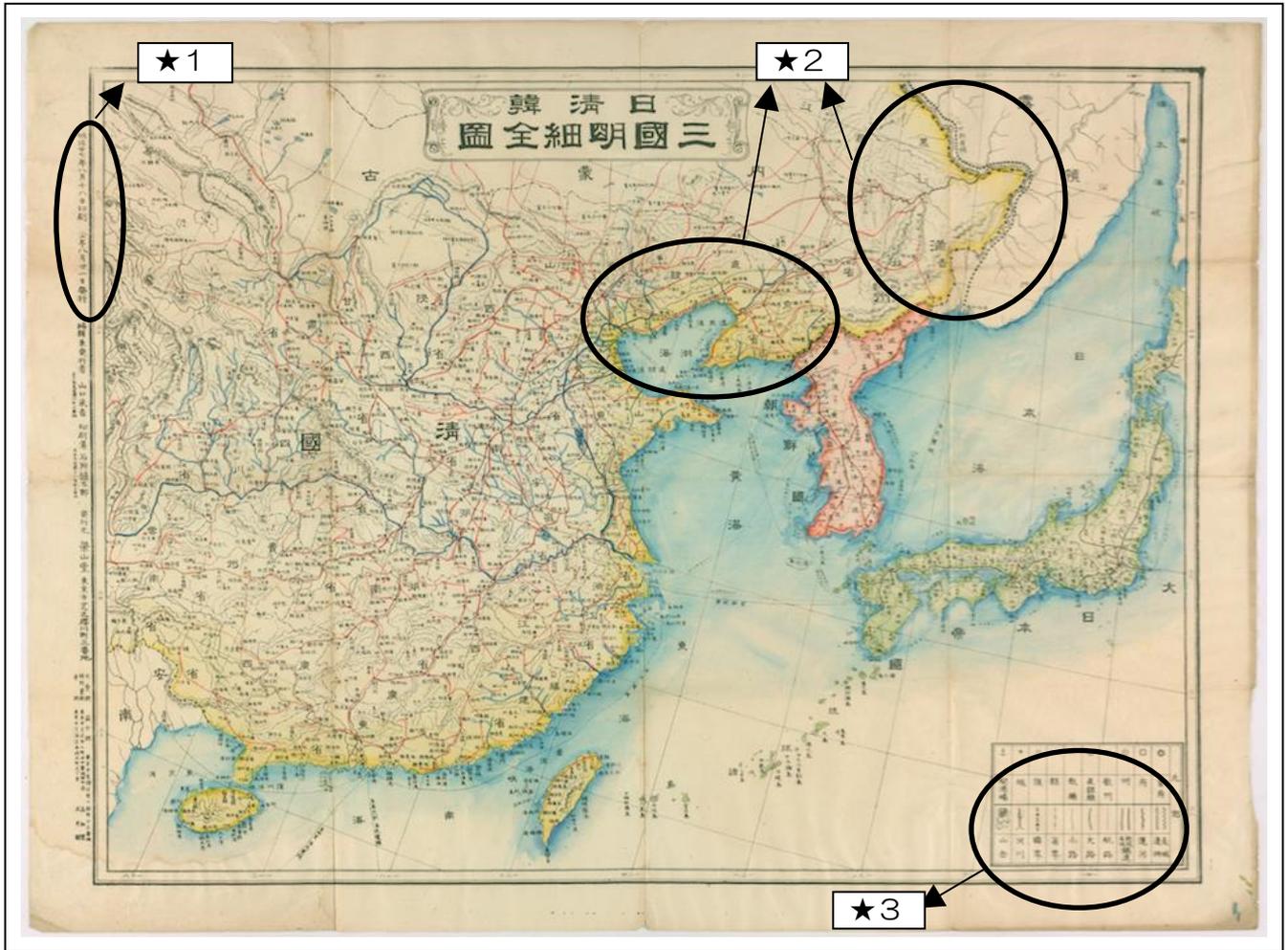
授業で使える当館所蔵地図

No. 32 『日清韓三国明細全図』

作成年：1894（明治27）年

サイズ：53×74cm

作者：山口米吉（編・発行）石附鐘太郎（印刷）



【解説】

明治初期の日本、朝鮮半島、中国について、詳細に記載されている。都市名だけでなく、河川や山岳などの地形、国や省の境界、道路などが記載されており、当時の国と国のつながりや国内のつながりを捉えることができる。日本によって作成された地図であるが、日本から近く情報の得やすい朝鮮半島や中国沿岸部の情報だけでなく、中国内部の情報も詳細に記されている。日清戦争をきっかけに大陸へと勢力を拡大していこうとしていた日本が、大陸の情報をかなり正確に把握していたことがうかがえる。この当時の日本の思惑を感じ取ることもできる地図である。

★1 明治廿七年

当時、欧米の列強は資源や市場の開拓のためにアジアやアフリカへの経済的な進出を強めていた。日本は不平等条約を改正して、欧米と国際的に対等な地位を得ることを目指していた。そんな中、朝鮮半島南部一帯で農民戦争が勃発し、日清両国が出兵し、8月に日清戦争が始まった。

その後、日本が勝利をおさめ、下関条約を結ぶ。しかし、この時に得た遼東半島はロシア、ドイツ、フランスの三国干渉によって清に返還することとなり、その後、ロシアが自らの根拠地とした。こうして、国民の間にはロシアへの対抗心が広がっていくなど、日本が大陸との関わりを強めていく時期である。

★2 鉄道敷設の計画

ロシアが国境線に沿って、日本海まで伸びるシベリア鉄道敷設の計画を立てていることがわかる。ロシアが朝鮮半島や中国に勢力を拡大しようとする意図が感じられる。また、朝鮮半島の北から西の方面へ向かって鉄道敷設の計画がされており、半島と大陸のつながりが強くなることを予想することができる。日清、日露戦争が起きたこの時期は、日本、中国、ロシアがそれぞれ勢力の維持や拡大をねらって、動いていたことが感じとれる。

★3 凡例

⚓	+	尸	•	○	◇	◎	◎	□	⊙	凡例
開港場	城	旗	縣	散廳	直隸廳	散州	州	府	首府	
山岳	河川	國界	省界	小路	大路	航路	未成鐵道 既成鐵道	運河	邊長 柵城	

各地の要所や地名だけでなく、道路、航路、鉄道網などが記されており、国や地域がどのようにつながっているかを一目で理解することができる。交通網のつながりを把握することが、このころの日本にとって重要なことであったことを感じることができる。

【利用の例】

- 当時の地名を知ることができる。
 - 歴史的分野の「日清・日露戦争と近代産業」において、遼東半島を地図上で確認することができる。
 - 日清戦争を取り上げて学習する際に、村名などが具体的に表記され、位置関係を理解できる。
- 朝鮮半島と清のつながりを知ることができる。
 - 朝鮮と清の国境を地図上で確認することができる。
 - 朝鮮と清の交通のつながりを確認することができる。
- 日本、中国、ロシアの勢力を知ることができる。
 - 日本、中国、ロシアが東アジアでどのように勢力を維持、拡大しようとしたのかということをイメージすることができる。